

令和2年度

事業活動報告書



公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

I. 法人の概要

(令和3年3月31日現在)

法人の名称	公益財団法人吉野川紀の川源流物語
設立年月日	平成14年4月1日 平成24年4月1日名称変更し、移行したことにより設立
定款に定める目的	この法人は、「樹と水と人の共生」を目指し、吉野川・紀の川の源流部を拠点に、その自然的価値、文化的価値を大切に、流域をはじめ都市部の人々にこれを伝え、共に考え、行動するため、体験学習・交流活動を通じて、広く啓発や環境教育に関する事業を行う。そして、これに必要な拠点施設や関連公共施設の維持管理・運営に関する事業を行い、源流域の自然環境保全活動に努める。これらの活動により、流域をはじめ都市部の人々と水源地域を結び、もってそれらの人々の公共利益に寄与することを目的とする。
定款に定める事業内容	この法人は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。 (1) 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業 ① 「吉野川源流－水源地の森」体験学習プログラムの提供 ② 森づくり体験学習プログラムの提供 ③ 体験学習を通じた環境教育の実施及び支援 ④ 水源地域の環境保全にかかわる人材の育成 (2) 流域交流・啓発にかかわる事業 ① 水源地域の自然及び文化を介した交流行事の実施 ② 水源地域の環境保全の普及啓発のための行事等の開催、印刷物等の刊行、電子情報媒体の作成 (3) 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業 ① 水源地域及び流域における参加型観察調査会の実施 ② 「吉野川源流－水源地の森」自然実態調査の実施 ③ 源流部における斜面崩壊地での対策実験及び経過観察の実施 (4) 拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業 ① 展示を通じて情報発信を行う施設の管理・運営 ② 源流部での体験活動の拠点となる森とこれに付随する施設の管理 (5) 学習教材や、啓発関連物品等の販売 (6) 他団体からの依頼にもとづいてこの法人が構築する情報や技術によって対応可能な業務の受託 (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業 2 前項第1号から第4号までの事業は、公益目的事業とし、奈良県内で行う。
主たる事務所	〒639-3553 奈良県吉野郡川上村大字迫 1374 番地の1

<p>役 員 等</p>	<p>評議員（五十音順）</p> <p>青山 幸嗣（奈良県水道局長） 上西 人支（和歌山市企業局長） 浦西 勉（元龍谷大学教授） 新井 寿彦（川上村教育委員会次長） 霜上 民生（株式会社近畿地域づくりセンター特別顧問） 杉浦 淳（大阪工業大学研究支援・社会連携センター長） 杉本 晃一（川上村定住促進課長） 西山 栄作（和歌山県企画部地域振興局地域政策課長） 東谷 八宗（川上村議会議長） 柘田 斉志（奈良県水循環・森林・景観環境部長） 松本 博行（川上村議会総務文教委員長） 宮田 典和（橋本市水道環境部長）</p> <p>理事（代表理事・業務執行理事を除き五十音順）</p> <p>栗山 忠昭 代表理事・理事長（川上村長） 阪口 和久 代表理事・副理事長（川上村副村長） 森脇 深 業務執行理事（川上村水源地課長） 池田 昌義（奈良県水循環・森林・景観環境部 水資源政策課長） 辻谷 達雄（元 森と水の源流館館長） 西久保 智美（コミュニティーライター） 橋本 裕行（明治大学文学部兼任講師 榎原考古学研究所特別研究員） 宮口 侗迪（早稲田大学名誉教授） 横田 岳人（龍谷大学准教授 教養教育センター副センター長）</p> <p>監事（五十音順）</p> <p>辰巳 八郎（川上村監査委員） 中島 誠（税理士）</p>
<p>主 な 会 議</p>	<p>定例理事会 6月 8日（前年度事業報告及び決算の件ほか） 定時評議員会 6月23日（評議員選任の件、理事、監事の選任の件 前年度事業報告及び計算書類等の承認） 臨時理事会 6月24日（代表理事、業務執行理事の選定） 8月14日（利益相反取引について） 定例理事会 3月25日（次年度事業計画及び収支予算書の件ほか） 公益法人立入検査 7月16日（指摘事項なし）</p>

II. 事業の状況

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため計画していた事業を一部中止した。

また実施した場合でも参加人数を減らすなどの対策を行った。

公益事業 I	環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業			
吉野川・紀の川の源流及び水源地域の自然環境や文化を資源とした環境学習及び体験等のプログラム実施を通じて、環境保全や保護についてともに考え、行動するきっかけを提供する。そして流域をはじめ都市部の人々と水源地域の交流を促進し、これらの地域の環境に対する意識の向上ならびに環境保全に寄与する。				
	時期	回数	参加数等	概要
水源地の森ツアー(一般公募型)	9・11月	3回	29名	水源地の森での体験学習。4・7月は中止。9・11月は感染予防対策の上実施
きがるに川上さんぽ	8月	2回	9名	館周辺で少人数での自然観察イベントを実験実施
団体(企業含む)研修等での利用	通年	7件	44名	「水源地の森」散策や森づくり体験等
環境教育支援(学校対応)	通年	70件	3,560名	小学校から大学の見学案内及び出張源流教室(オンラインを含む)
森と水の源流館 ESD 授業づくりセミナー	7・8・9・ 12・2月	5回	135名	近畿 ESD コンソーシアムとの連携事業で教員のための授業計画づくり。オンラインを活用したことで、例年より多い、多方面からの参加があった
源流学の森づくり (源流人会等の活動)	11月	2回	8名	一旦伐採された二次林での森林整理作業を行った
草刈りボランティアの機会づくり (川上村「未来への風景づくり」)	9月	1回	5名	旧白屋地区の草刈り・外来種駆除を行い、水源地域の環境保全にかかわる人材育成

公益事業 II	流域交流・啓発にかかわる事業			
吉野川・紀の川流域をはじめ都市部の人々と相互に交流することによって、源流及び水源地域の自然環境や文化的価値を見出し、大切に守り育てていくことを目的とした啓発イベントや講座を実施する。そして自然環境について高い意識をもった人材育成につなげることで、これらの地域環境保全ならびに向上に寄与する。				
	時期	回数	参加数等	概要
夏休み(館内)プログラム	7~8月	3種	-	「観察ノート」・「いきもの観察カード」・「標本づくり」配布及びweb公開
オンラインによる発表、教材提供	通年	3回	-	龍谷大学教員免許更新講習(博物館と ESD)、ユネスコスクール近畿大会、全国 ESD フォーラム等
流域等各地へのPRキャラバン	通年	2回	-	和歌山市「しらすまつり」参加。来館校との交流、教材展示を展開。「おもしろ環境まつり」へのオンライン参加。来館校発表で協働
機関誌『ぼたり』発行	7・11・3月	3回	-	財団の動きや各事業報告・調査レポートなど

公益事業Ⅲ	源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業			
吉野川・紀の川流域の源流部における自然的価値及び文化的価値を大切にするため、流域をはじめ都市部の人々にも参加を求めながら調査・研究を行い、その成果の発信を行うことを通じて、これらの地域の環境保全ならびに向上に寄与する。				
	時期	回数	参加数等	概要
吉野川紀の川しらべ隊	8・3月	2回	10名	参加者公募型の調査。5・6月は中止。8月は参加者募集を中止。3月は感染拡大防止対策の上実施
水源地の森自然環境調査	4・6月	4回	12名	両生類・爬虫類の調査。HPで公開
水源地の森下層植生調査	6・10月	4回	9名	下層植生の調査
旧白屋地区の定期観察と発信	4～11月	8回	—	白屋地区の植物や昆虫などのモニタリング調査。刈り取った雑草を堆肥化し、モニタリング調査を開始
川上村内の自然環境調査	5・6月	—	—	特定外来生物指定植物の分布状況を調査
地域おこし協力隊受入による調査研究・発信	通年	—	—	昆虫を指標とする地域環境の把握、発信。地域資源の活用。教材の開発など
東京海上日動(和歌山支店)「GreenGift 地球元気プログラム」	日本NPOセンター	—	—	環境保護に関する体験活動に向け「紀の川・吉野川生き物観察ガイドブック」製作
他機関への調査協力	通年	—	—	コケ・昆虫の調査協力

公益事業Ⅳ	拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業			
水源地域における環境保全の啓発や環境教育を行う拠点となる施設やフィールドを一体的に維持管理及び運営を行うことで、地域環境保全ならびに向上に寄与する。				
	時期	回数	参加数等	概要
「森と水の源流館」管理	通年	—	利用者7,432名	日常の維持・管理、運営、定期点検、清掃、補修。感染拡大防止のため4・5月は臨時休館した
「吉野川源流—水源地の森」管理	通年	38回	—	散策路周辺の見回り・点検、補修(入山者140名)
「水源地の森交流施設」管理	通年	15回	—	水源地の森に付帯する休憩・管理施設の見回り・点検、補修

※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止になった事業

「水源地の森ツアー(4/19・7/4 公益Ⅰ)」「源流のつどい(1/23 公益Ⅱ)」「募金キャンペーン おはなしカーニバル(5/31 公益Ⅱ)」「吉野川紀の川しらべ隊(5/16・6/6 公益Ⅲ)」など。

※森と水の源流館の対応

(公財)日本博物館協会の示すガイドラインに基づく対策を徹底及び周知したうえで、ユニバーサルデザインの視点での展示改良。またオンラインイベントの機会が増えたことに応じて「源流の森シアター」や「川上村劇場」などをパブリックビューイングの場として活用した。

収益事業Ⅰ	ミュージアムショップ事業
拠点施設において、訪問の記念となる品とともに、源流及び水源地域の支援・PR並びに自然環境の保全・啓発等に寄与する関連商品の販売を行う。	
概要	
オリジナル商品(副読本・絵本・ポストカード・楽曲CDなど)、地域の自然・歴史・文化・伝承を紹介した商品(書籍・地図など)、村内で生産された商品(ペットボトル入湧水・雑貨品など)、自然観察用品(野帳・ルーペなど)を販売している。	

収益事業Ⅱ	受託事業		
他団体からの依頼にもとづいて当財団が構築する情報や技術によって対応可能な業務を受託し、実施する。			
	委託者	時期	概要
和歌山市民の森管理業務委託	和歌山市	8～3月	3haの二次林管理作業
水のつながりプロジェクト実施等に係る業務	川上村	4～12月	農作業や源流散策など平野部との相互交流事業実施支援、報告書作成
特定希少野生動植物コサナエ保護管理事業計画策定調査業務	環境科学大阪(株)	5/28～3/12	生息地の情報提供、保護管理に関するアドバイス、現地調査への同行
学習旅行提案パンフレット製作	吉野川紀の川源流ツーリズム推進協議会	8/28～2/25	学習機会での川上村の活用提案パンフの企画から印刷
「吉野源流体験スタンプラリー」	JTB奈良支店	11/9～12/6	11～12月の土日祝に館内で体験プログラムを実施

公益事業Ⅰ 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業

一般公募や団体の要望により企画する「水源地の森ツアー」のほか、源流地域の自然や文化にふれる体験型ツアーを含めた研修の受け入れを行った。

【一般公募型 水源地の森ツアー】

新型コロナウイルス感染症対策のため日程・参加人数を変更し9月・11月に開催、29名が参加。



【きがるに川上さんぽ】

新型コロナウイルス感染拡大防止対策とともに可能なかたちの観察会を試験的に再開。参加人数を絞り、フェースシールドやハンズフリー拡声器を用いて適切な間隔を保持するなどに留意。



蜻蛉の滝 (8/17)



森と水の源流館周辺遊歩道 (8/22)

【団体・企業の研修等での利用】



ダイワハウス工業株式会社 (10/3)



NPO法人里山倶楽部 (3/22)

【源流人会の活動】

水源地域の環境保全にかかわる人材育成。山村で培われた知恵、技を「源流学」として共有。



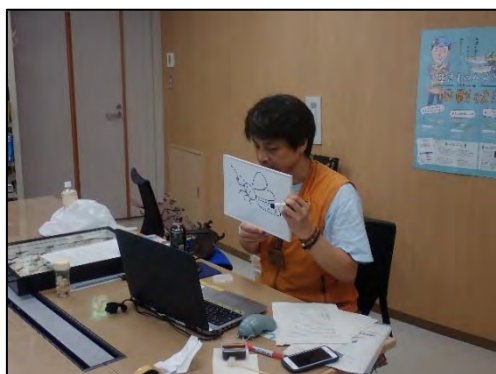
「源流学の森づくり」(11/22・23)



「白屋草刈りボランティア」(9/28)

【環境教育支援(学校対応)】

ガイドラインに基づく新型コロナウイルス感染拡大防止対策の上、学校対応を再開。学校の基準に準じて出張源流教室の希望にも応じた。出張のかわりにオンラインによる授業支援にも対応。また6月からこれらを併用し、秋の来村へ導き、例年以上に子どもたちの深い学びへつながる事例もあった。



同志社国際学院初等部オンライン授業(7/20)



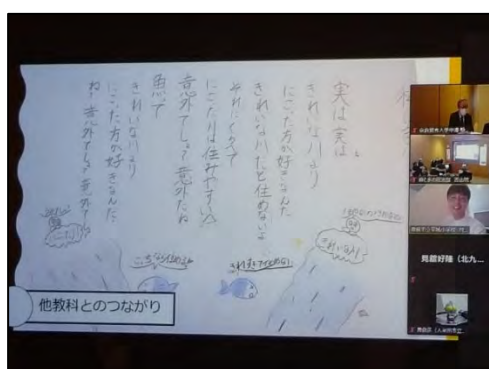
出張源流教室(11件)

【森と水の源流館 ESD 授業づくりセミナー(近畿 ESD コンソーシアム)】

現役小学校教員を対象に、実際に学校で行う授業の単元計画作成に対し、奈良教育大学が指導にあたった全5回のセミナー。オンライン開催を余儀なくされたが、参加者の増加・広域化につながった。最後の実践報告会は森と水の源流館とオンラインのハイブリッド開催として、川上村関係者や教員以外の参加者もあり、例年以上にESDの地域への普及につながった。



実践報告会(2/20)での川上村長あいさつ



オンラインで各地から先生の授業実践の報告

【ESD の取組発信】

川上村や吉野川紀の川流域における素材を教材とした深い学習を支援。橿原市や奈良市、和歌山市の小学校の先生とともに取り組んだ。



3年生理科の「昆虫の体のつくりや育ち方」を支援でオリジナル教材の活用を提案し、成果を展示（橿原市立耳成南小学校2年生）



児童たちに、川のもつ役割や生きものとのつながり、人とのつながりを体感してもらった授業（「しあ環せの糸」奈良市立平城小学校4年生）

News

「水」と「人」でつながる総合学習

「やっこ会えねね 尾上さん」

手紙やビデオレターで絆を深めて、お互いを訪問

一本がっつりしたのは、絆し紀の川の水源地。好意あふれる児童と、奈良県橿原市川上村の児童が、水源地の自然を学ぶ機会を得た。

尾上忠大（おごべただ）は、和歌山県和歌山市立雑賀小学校4年1組の児童。10月17日のリビンピックで、川上村を訪れた。川上村の自然を学び、水源地の自然を学ぶ機会を得た。

川上村の自然を学び、水源地の自然を学ぶ機会を得た。

雑賀小4年1組と「森と水の源流館」事務局長の学びの交流

尾上忠大（おごべただ）は、和歌山県和歌山市立雑賀小学校4年1組の児童。10月17日のリビンピックで、川上村を訪れた。川上村の自然を学び、水源地の自然を学ぶ機会を得た。

川上村の自然を学び、水源地の自然を学ぶ機会を得た。

雑賀小学校4年1組の皆さん、担任の赤松先生 こんにちは。私は、和歌山県和歌山市立雑賀小学校4年1組の児童です。10月17日のリビンピックで、川上村を訪れた。川上村の自然を学び、水源地の自然を学ぶ機会を得た。川上村の自然を学び、水源地の自然を学ぶ機会を得た。

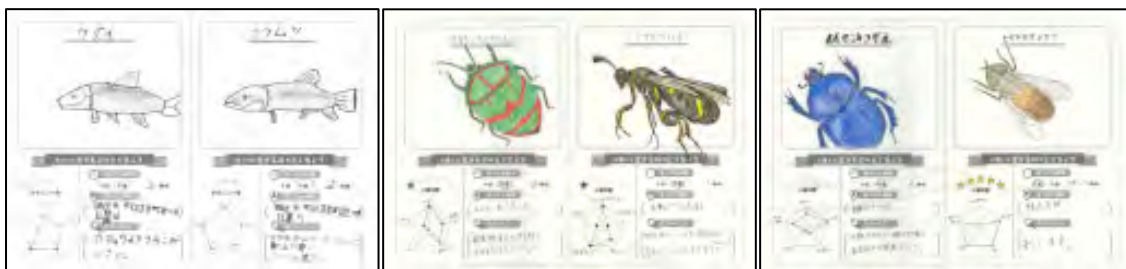
コロナ禍を逆手に、事前交流と学習を重ねた末に川上村を訪問のニュースは、約 50 年前に川上村から和歌山市へ嫁いだ人との交流にもつながった（和歌山立雑賀小学校4年1組）

公益事業Ⅱ 流域交流・啓発にかかわる事業

コロナ禍において、イベント出展等でのPR機会は減ったが、オンラインでの機会をいかした源流地域の魅力の発信とともに、水源地域保全の普及啓発に取り組んだ。

【夏休み館内プログラム(Web ページの活用)】

夏休みの宿題に使えるよう、ホームページ上で「いきもの観察カード」等を公開し、利用を呼びかけた。また届けられたカードもホームページで公開



【流域等各地での情報発信・PR、啓発活動】



「和歌浦しらすまつり」(11/3)で川上村の出展を協力。交流する近隣の小学校児童の学習発表やアンケートの場として活用



おもしろ環境まつりオンライン
(和歌山環境ネットワーク)

【オンラインによる発表、教材提供】



龍谷大学教員免許更新講習(7/31)、ユネスコスクール近畿大会(11/1)
全国源流サミット特別編 2020(11/30)、全国 ESD フォーラム(12/19) など

【水源地の森守募金】

通年にわたって募金を呼びかけている。寄せられた額は、水源地の森啓発パンフレットの改訂・増刷やマナー看板製作にあてた。



【機関誌『ぼたり』No.48・49・50号発刊】


活動報告や調査結果などを記載し、夏・冬・春の定期発刊。源流人会会員、村内観光施設、村内図書館、国会図書館ほかへ配布している。

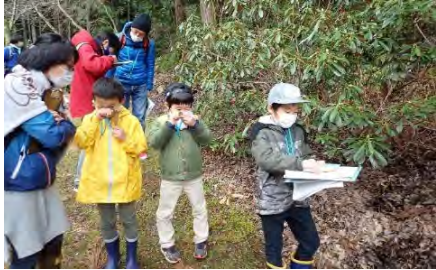


公益事業Ⅲ 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業


源流域の環境の実態把握と周知をねらいとして、流域をはじめ都市部の人々に協力を呼び掛けた参加型の調査も実施した。


【吉野川紀の川しらべ隊】

「水生生物調査」	
調査内容 川上村西河(蜻蛉の滝)周辺の水生生物を調査	実施期間、時期 令和2年8月10日
概要 新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため参加者を公募せずに実施。調査の結果、きれいな水(水質階級Ⅰ)の指標生物2種、ややきれいな水(水質階級Ⅱ)の指標生物12種が採取され、これまでに引き続き安定した環境にあることが確認できた。	 <p>ヘビトンボ(水質階級Ⅰの指標生物)</p>


「コケをしらべよう」	
調査内容 川上村西河(蜻蛉の滝)周辺のコケを調査	実施期間、時期 令和3年3月6日
概要 調査参加者を公募し10名で実施。密を避けるために方法を工夫し、事前に作成したワークシートを用いて調査を行い、19種類のコケを確認することができた。	 <p>「コケをしらべよう」実施風景</p>

【水源地の森自然環境調査】


吉野川源流-水源地の森の保全事業に関する環境調査	
調査内容 平成14年度から毎年対象を設定し、水源地の森を継続的に調査	実施期間、時期 令和2年4月～令和3年2月
概要 本年度は、両生類の調査を実施し、奈良県指定天然記念物のオオダイガハラサンショウウオ・絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)のマホロバサンショウウオの生息を確認。「水源地の森」では溪流と森林の環境が良好に保たれていることが示唆された。	 <p>オオダイガハラサンショウウオ</p>

水源地の森下層植生調査	
調査内容 「吉野川源流-水源地の森」内の下層植生を調査	実施期間、時期 令和2年6月～令和3年3月
概要 平成18年度より実施している調査。「水源地の森」内に設置した防鹿柵の内外での下層植生をモニタリングし、シカの食害による影響について調査。調査時に見回りを実施したところ、「水源地の森」内でもナラ枯れが発生していることを確認した。	


【旧白屋地区定期・定点観察と発信】

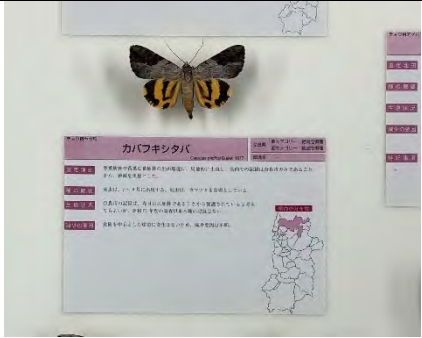
旧白屋地区調査	
調査内容 過年度資料モニタリング。各季節の調査レポート作成	実施期間、時期 令和2年4月～令和3年3月
概要 今年度は昆虫相の記録を実施し報告書を作成。調査概要を「白屋の生き物かわら版」として紹介。「かわら版」は館内に掲示するほか、ホームページでも公開。旧白屋地区で初めて両生類(ニホンヒキガエル)を生息を確認した。	 ニホンヒキガエルの卵

【川上村内の自然環境調査】

川上村における特定外来生物指定植物分布調査	
調査内容 特定外来生物指定植物の分布調査	実施期間、時期 令和2年5～6月
概要 特定外来生物指定植物のオオキンケイギク・ナルトサワギク・オオカワヂシャのおおよその生育範囲を特定したほか、県内で記録が少ないペラペラヨメナ(外来種)と、吉野川最上流での自生とみられるユキヤナギ(在来種)を確認。情報はクリーンキャンペーン等で村民が対象種を駆除する助けとなるようホームページで公開、速報展示も実施。	 ホームページ上での公開

【地域おこし協力隊受入による調査研究・発信】

川上村におけるギフチョウ生息状況確認調査	
調査内容 生息状況確認及び保護計画の立案	実施期間、時期 令和2年4月～令和3年3月
概要 川上村が自然分布の南限であるギフチョウの生息状況確認調査を実施した。調査結果よりニホンジカの食害による植生の変化が生息環境に影響していることが示唆された。3/4には村内におけるギフチョウの現状報告と保全を目的とした村民向け勉強会を開催。かつてギフチョウを飼育していた村民の方も参加され、飼育記録や飼育技術提供の申し出があった。	 村民向けギフチョウ勉強会(3/4)


川上村自然生態調査(昆虫類)	
調査内容 昆虫類生息状況調査及び標本収集 観察スポットの選定と活用の検討	実施期間、時期 令和2年4月～令和3年3月
概要 カバフキシタバ(奈良県内で44年ぶりの確認)、ニシキキンカメムシ・アカジマトラカミキリ(県内初)、イボタガ(村内初)を確認した。カバフキシタバの発見報告を兼ねて、ミニ展示「奈良県のちょっと珍しい昆虫」(10/24～12/28)を実施。	 カバフキシタバ(標本)

地域資源調査	
調査内容 川上村地域おこし協力隊・源流ツーリズム推進室との協働で、歴史・民俗・自然から活用可能な地域資源を選定し、エコツアーや教材としての活用を検討。	実施期間、時期 令和2年4月～令和3年3月
概要 旧白屋地区で刈り取られた雑草を、資源として活用する可能性を探るため、雑草堆肥づくりに着手。	 雑草堆肥づくり


教材開発のための研究	
調査内容 過年度までに制作した教材ツールを活用してもらいながら、活用事例を発信。また改善内容を研究。	実施期間、時期 令和2年4月～令和3年3月
概要 教材ポスター・観察カード・流域つながり絵巻を積極的に配布。活用成果や意見を学校教員に聞き取る。	

「GreenGift 地球元気プログラム」	
調査内容 東京海上日動が日本 NPO センターとの協力のもと、全国で子どもたちを対象とした環境保護活動を支援しており、和歌山支店のプログラムとして採用された。	実施期間、時期 令和2年4月～令和3年3月
概要 「川が結ぶ地域のつながり」を意識した紀の川大堰周辺の干潟の観察会の予定であったが、コロナ対策により代替事業として「紀の川・吉野川生きもの観察ガイドブック」を製作。	
 	

【他機関への調査協力】

蜻蛉の滝の蘚類(コケ植物)調査	
調査内容 奈良教育大学松井研究室の卒業論文研究への協力。	実施期間、時期 令和2年4月～令和3年3月
概要 蜻蛉の滝周辺でのコケの生育状況をまとめた。220種のコケ植物を確認したほか、環境省レッドデータブックの絶滅危惧Ⅱ類、奈良県レッドデータブックの絶滅危惧種に指定のカシミールクマノゴケを発見。	

ゴイシツバメシジミ保護増殖事業	
調査内容 ゴイシツバメシジミ(チョウ)の保護・増殖事業モニタリング調査・啓発への協力。	実施期間、時期 令和2年4月～令和3年3月
概要 環境省(近畿地方環境事務所)が北股で実施しているゴイシツバメシジミ保護・増殖事業に関するモニタリング調査と啓発に協力。山林所有者の協力のもと、下層植生を保護するための柵を設置。	

特定希少野生動植物コサナエ保護管理事業計画策定	
調査内容 奈良県景観・自然環境課が進めている特定希少野生動植物調査に協力	実施期間、時期 令和2年4月～令和3年3月
絶滅寸前種。県内では下北山村でのみ確認されるコサナエ(トンボ)の保護管理事業計画策定のための現地調査・文献紹介、生息環境保全にむけた提言等のアドバイザー協力をした。	

公益事業Ⅳ 拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業

【「森と水の源流館」の管理】

指定管理協定にもとづき年間の施設の維持管理・運営管理として、案内や企画展・ミニ展示・歳時展示などを開催した。

【企画展】



企画展「水源地の森調査結果～自然環境調査と卒業研究の記録～」(8/11～9/28)
学生の研究発表の場づくりのモデルとして、龍谷大学学生の「水源地の森」での調査結果と、平成14年度からの「水源地の森」調査の概要を報告展示

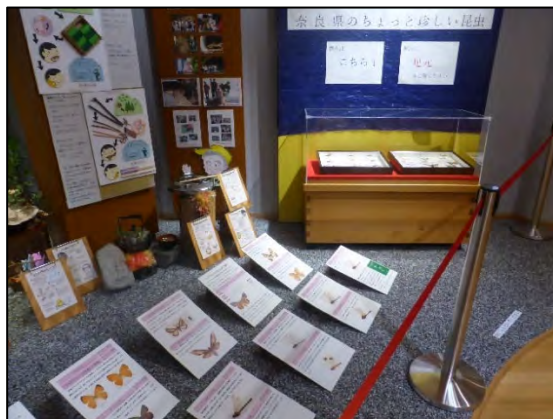
【ミニ展示・コーナー展示】



「水源地の森と川上村のいきもの」(6/1～6/30)



「川上村の爬虫類・両生類」(10/1～11/30)



「奈良県のちょっと珍しい昆虫」(10/24～12/28)
奈良県で44年ぶりとなる昆虫を村内で発見し展示



源流ツーリズム推進室共同「森が守る星空」(12/1～3/30)



(左)「森と水の源流館のまわりで冬でも見られる外来種」(1/29～2/19)

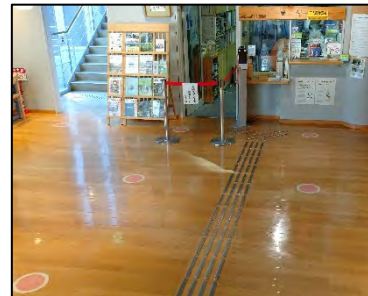
(右)「うっかり入館虫」(7/72/19)換気中に館内に進入した昆虫を観察カードの記入例として展示

【新型コロナウイルス感染拡大防止対策を踏まえた展示の改良】

ユニバーサルデザインの発想を取り入れ、コロナ禍にも楽しめる展示へ職員作業で改良



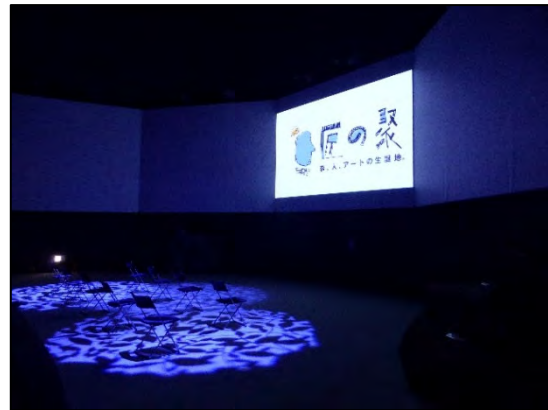
手を触れず、足踏みで鳴き声が出るよう改良



「ソーシャルディスタンス」を間伐にたとえて解説

【源流の森シアターの活用】

機器設備の更新がされ、映像画質が向上。DVD ディスク上映やPC 接続も可能となり活用



(左)「源流の日」PR 企画

「モリナリエ 2020～源流からより良い未来への一歩～」(11/14～12/27)

(右)匠の聚フォトコンテスト 2020 入賞作品特別巡回展 (2/14～3/28)

【パブリックビューイング】

同じく機器設備更新がされた川上村劇場をオンラインイベントの会場として活用



ESD 授業づくりセミナー実践報告会(2/20)



大阪工業大学メディアコンテンツ表彰式(1/19)



「おもしろ環境まつり」(12/6)会場と和歌山市立雑賀小学校と森と水の源流館を結ぶ



「吉野川源流一水源地の森」・「水源地の森交流施設」の管理

「水源地の森」及び休憩小屋・管理棟の定期的な見回り・点検・清掃・修繕を実施。

大雨の後の散策道、木橋の復旧。管理棟周辺でのゴミの改修。バーベキュー後のゴミ放置が目立ってきており、川上村役場へ報告、相談



「水源地の森」・「交流施設」周辺のゴミの投棄状況

収益事業（受託事業）

【水のつながりプロジェクト実施等に関する業務】(川上村)

大和平野土地改良区の農作業の体験を通じて、源流部と平野部の小学校の交流事業



源流体験 子ども向け源流体験(9/10)



稲刈り体験(10/26)(檀原市内)

【学習旅行パンフレット製作】(吉野川紀の川源流ツーリズム推進協議会)

授業づくり支援等で構築したノウハウをいかし、学習旅行を提案するパンフレットを製作



【吉野源流体験スタンプラリー】(JTB奈良支店)

11・12月の土日祝日に、吉野町と川上村内の施設をめぐる体験プログラム提供を請け負う



音楽と香りのワークショップ(11/22)



エリックさんの「私が川上村に住む理由(11/29)

パブリシティ（新聞ほか掲載記事）

吉野川・紀の川 魅力でつながる

流域マップ作製へ



児童らに協力を求めて完成をめざす「吉野川・紀の川流域つながり絵巻」のベース図。川上村富の平

紀の川（吉野川）の「水源地」を自負する川上村の「森と水の源流館」が、下流域の児童らに情報提供してもらい、流域を一覧でき

るイラストマップ「吉野川・紀の川流域つながり絵巻」を作製する。そのベース図（横1.5、縦0.4）が出来た。

川上村は、奈良、和歌山両県の計14自治体で吉野川・紀の川流域協議会を構成。各市町村の児童らにそれぞれ特徴のある地域の歴史、食べ物、産業、生き物などを調べてデータを提供してもらい、ベース図に盛り込む。川でつながる流域の魅力を描巻のように広げて楽しめるようにし、完成させる予定。提供される情報が多ければ、ジャンル別に絵巻を複数作製することも検討する。

源流館のスタッフ古山皓さん(39)は「自分が住んでいる地域が1本の川でつながっていて、どんな特色があるのか考えをきっかけになる教材にもなれば」と話す。(福田純也)

「川上宣言」知らせる

水源地の森保全 モニュメント設置

「水源地の森」を守り、△下流にはいつもきれいな水を流します▽など誓った「川上宣言」(1996年)を村内外で広く共有してもらおうと、川上村は今春、宣言文を刻んだモニュメントを国道169号沿いの村内3カ所に設置した。吉野川(紀の川)の源流に位置する村が「持続可能な暮らし」を目指す際の「憲章」として発信している。【菅原健一】

モニュメントは3月、村は広報を控えてい設置されたが、新型た。5項目の宣言文がコロナウイルスの影響刻まれ、「宣言ひとつ



ひとつの表現に向けて歩みが続けます」と誓っている。

村は99年度から約10億円を投じて約740

の森を購入し、「水源地の森」として保全活動をしている。20

07年度からは毎年、県内の小学校50校で

「森林環境教育」の出前授業に取り組み、

△子供たちが、自然の生命力の躍動にすなおに感動できるような場▽

を作ってきた。△都市宣言の意義をアピール

や平野部の人たちにしている。今年度、村で同館に携わり、05年も、川上の豊かな自然の価値にふれあってもらえるような仕組みづくりに励みます▽。下流域でも村の森林保全活動をアピールし、近年、和歌山市などでも取り組みが高く評価されている。

また、△都市にはない豊かな生活▽の実現は、吉野川再生に力を入れている。2007年度からは毎年、県内の小学校50校で「森林環境教育」の出前授業に取り組み、△子供たちが、自然の生命力の躍動にすなおに感動できるような場▽を作ってきた。△都市宣言の意義をアピール

「水源地の森」を守り、△下流にはいつもきれいな水を流します▽など誓った「川上宣言」(1996年)を村内外で広く共有してもらおうと、川上村は今春、宣言文を刻んだモニュメントを国道169号沿いの村内3カ所に設置した。吉野川(紀の川)の源流に位置する村が「持続可能な暮らし」を目指す際の「憲章」として発信している。【菅原健一】

「水源地の森」を守り、△下流にはいつもきれいな水を流します▽など誓った「川上宣言」(1996年)を村内外で広く共有してもらおうと、川上村は今春、宣言文を刻んだモニュメントを国道169号沿いの村内3カ所に設置した。吉野川(紀の川)の源流に位置する村が「持続可能な暮らし」を目指す際の「憲章」として発信している。【菅原健一】



△大阪工業大との連携授業で講師を務める「森と水の源流館」の尾上忠大事務局長(左)と村水源地課主任の加藤満さん(川上村役場で△国道169号沿いの「回オオスキ広場駐車場」に設置された「川上宣言」モニュメント。川上村で

自然の貴重さ わかりやすく

うちのセンセイ @ 奈良

森と水の源流館班長

木村 全邦さん 47

駐車場の片隅に目を向けたとたん、10種近くのコケや草を見つけた。「これが県内初発見だったマエバラマゴケ」「スナゴケに水をかけると葉が開いてきれい」。ルーペ片手に語り出すと止まらないうい。「こんな所でも1時間はあつという間に過ぎます」と笑った。

吉野川源流の原生林を保全する川上村。貴重な自然や文化について解説する「森と水の源流館」で、開館4年目の2005年から展示企画や研究調査を担当し、自然観察イベントなどの講師も務める。専門のコケに限らず、草木や動物、山の暮らしなど知識は幅広い。「人によって興味は様々。できるだけわかりやすく、森の大切さを伝えたい」という。

うれしいことがあった。イベントの常連だった中学生が、「水をきれいにする仕事をしたい」と大卒に進み、土壌を研究していると報告に来てくれた。「川上村の自然がきっかけで思いが広がり、仲間が増えた」と喜ぶ。

新型コロナウイルスの影響で中止していたイベントは7月から1組少人数限定で再開。森と人をつなぐ橋渡し役として奮闘は続く。



駐車場の片隅で次々と植物を見つける木村さん。「見始めると1時間はあつという間」（川上村で）

奈良新聞 2020.8.1

川上村がオンライン授業

新型コロナウイルスで校外学習中止 木津川の小学生に

大滝ダムや森の役割解説

オンライン授業でダムについて話す国交省と森と水の源流館の職員
7月27日、川上村東川の芸術文化交流施設「匠の聚（むら）」



川上村は7月27日、木津川市の同志社大学付属同志社国際学院初等部をインターネットでつないだオンライン授業を行った。ダムについて学ぶ4年生の社会科の授業で実施。同村内の国土交通省大滝ダム学べる防災ステーションと村の環境学習施設「森と水の源流館」の職員2人が講師を務め、大滝ダムや森の役割について解説した。

授業は、大滝ダムには25億円の約17万倍の貯水ができて、その背後に保水力の高い森が広がっていることがイメージできる内容。さまざまな方法で洪水や濁水の危険から人々の暮らしが守られていることが伝えられた。

同校は数年前から、校外学習で川上村を訪問。今年は新型コロナウイルス感染拡大のため中止となっていた。同校とのオンライン授業は初めてだったものの、ICT（情報通信技術）を使った学習は積極的に取り入れていることから、児童は慣れた様子で質問するなどしていた。



きがるに川上さんぽ川上村

川上村の身近な自然や文化をさんぽしながら、いっしょに楽しみましょう。各1時間、森と水の源流館のスタッフがガイドします。お申し込みの上、集合場所へ直接お越しください。

1. 音無川周辺 (川上村西河)
 集 合：蜻蛉の滝 (あぎつの小野スポーツ公園) 駐車場
 8/17 (月) 10:00～、15:00～ 8/22 (土) 10:00～
 2. 白屋集落跡周辺 (川上村白屋)
 集 合：白屋展望台 (東屋) 付近 ※駐車場あり
 8/1 (土) 10:00～
 3. 森と水の源流館周辺 (川上村宮の平)
 集 合：森と水の源流館 ※駐車場あり
 8/1 (土) 8/22 (土) 各15:00～
- 対 象：小学生以上 (小学生は保護者も参加のこと)
 参加費：500円
 定 員：5人 (2人以上の1組限定)
 お問い合わせ 森と水の源流館 Tel.0746-52-0888

水源たどる 森歩きツアー

川上で9・11月 参加者募集

川上村の「森と水の源流館」は、吉野川 (紀の川) 源流部の原生林を観察する「水源地の森ツアー」を9月13日、11月3、29両日に催す。4、7月に予定されていたツアーが新型コロナウイルスの影響で中止になった。今後の3回は定員を半分の10人に減らし、参加を募っている。水源地の森は同村三之公にある村有林で広さは約740

畝。普段立ち入りが制限されており、ツアーでは源流館スタッフらの案内で歩く。各回午前9時半～午後4時半で、集合・解散は源流館 (希望者に近鉄大和上市駅との送迎あり)。参加費は4500円 (小中高校生3100円) で、小学生は保護者同伴。先着順。問い合わせは源流館 (0746・52・0888)。(福田純也)

夏の自由研究 ネットで応援

森と水の源流館

森と水の源流館 (川上村) は、小中学生を対象に「夏！宿題・自由研究おうえん」を今月末まで開催している。新型コロナウイルスの影響で来館が制限されている事情を踏まえ、インターネットを使い、自宅で学習支援が受けられるという触れ込みだ。源流館のWEBページ

(<http://www.genryu.or.jp/>) で学べるのは①観察ノート②いきもの観察ブック③いきもの標本づくりの3つ。

内容は、①村の自然や歴史が学習できる②公園など身近にいる生き物を探し、図鑑で調べたことを専用の「観察カード」に入力。それらの情報が一冊の「観察ブック」にまとめられて公開され、観察のポイントが学べる③基本的な植物標本の作り方が習得できる」となっている。

質問があればメール (orimizun@genryu.or.jp) で回答するが、時間がかかる場合もあるという。(福田純也)

水家の夏休み2020 (森と水の源流館) 編

「紀の川」のESDのテーマソング

水の旅のはなし

詞：尾上忠大 曲：松谷文英 (森と水の源流館)

Musical score for '水の旅のはなし' with lyrics and illustrations of water, rice, and people.



吉野川・紀の川源流「水源地の森」

今日8月1日は 水の日

川上宣言 (Kawajima Declaration) text and industry/organization/children/environment categories.

川上村について

川上村は、面積69.1 頃、大堰とダムが作り出された山間地域。...

ワフポイント情報 (Wafu Point Information) including activities and contact info.

「持続可能な社会をつくる」それを担う人材の育成というテーマに、森と水の源流館では...

LIXIL 特約店 株式会社 上 桀 タイル 代表取締役 上 桀 喜章

PMIA 一般社団法人 良縁親の会 親と子、地域密着の婚活で日本の明るい未来を目指そう

奈良県漁業協同組合連合会 山は川を育み、川は海を育む

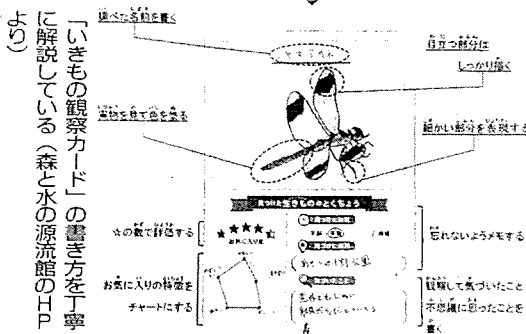
歴史を愉しむ 10月3日-4日

夏休みの学習を応援

森と水の源流館 小中校生向けにHP

川上

森と水の源流館(川上村迫)はホームページ(HP)で、小中学生の夏休みの学習を応援する「夏」宿題・自由研究おうえん」を開設した。31日まで。新型コ



ロナウイルスの影響で来館が制限されることを踏まえ、自宅でインターネットを使って学習できるよう工夫を凝らした。

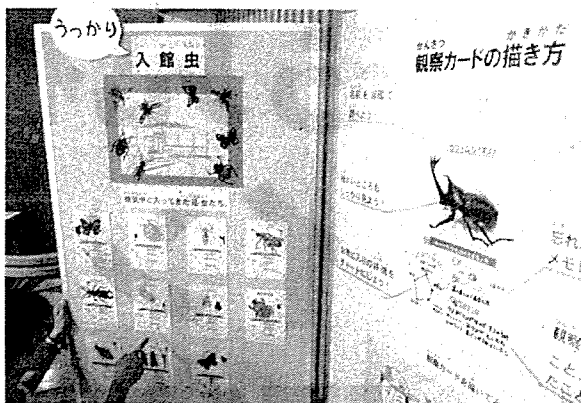
HPから印刷できる「観察ノート」には、村の自然や歴史について詳しい説明があり、学習して気づいたことを記入できる。同館オリジナルの「いきもの観察カード」も印刷でき、公園や校庭など身近にいる生き物を採って、図鑑で調べたことをカードに記入する。同館は、完成したカードのデータを送ってもらい、その情報を一冊の「観察ブック」にまとめて公開する計画だ。また、植物の標本の作り方も公開している。

質問があれば、メール(morinu@senryu.or.jp)か電話(0746・52・0888)で応じて。水曜休館。【菅原健一】

夏休みの学習を応援

川上村「森と水の源流館」

身近な自然で 楽しく学ぼう



館内に展示された観察カードの記入例
4日、川上村宮の平の森と水の源流館

川上村の環境学習施設「森と水の源流館」が、インターネットのホームページを一新した。夏休みの子供たちの学習を応援するのが目的。生きものの名前、特徴を記入して完成させる観察カードなどがダウンロードできるのをはじめ、植物標本の作り方や同館の展示内容を全面公開している。

生きもの観察カードや

標本の作り方など公開

生きもの観察カードは同館オリジナル。見つけた生きものを描いたり、図鑑で調べたりして記入する。大きさや形の特徴に気づくことを促すとともに、「かっこいい」「飼ってみたい」

計画。子供たちに協力を呼び掛けている。

このほか図鑑で調べても名前などが分からない場合は、問い合わせにも対応。同館内には記入例として、換気中に館内に入り込んだ虫をユーモアたっぷりに紹介する観察カードも展示している。

子供たちは今夏、新型コロナウイルス感染症予防で外出の機会が減少傾向。同館企画調査班の古山眺さん(39)「昆虫生態学」は家の周りや近くの公園も観察すると発見がいっぱいある。観察カードは博物学者への「第一歩」と話す。

22日には職員が同館周辺を案内する観察会「いきがるに川上さんぽ」を実施。午前10時、午後1時の2回で各回約1時間。参加費500円。新型コロナ対策で各回1組(2〜5人)限定。要予約。

申し込み、問い合わせは同館、電話0746(52)0888(水曜休)。

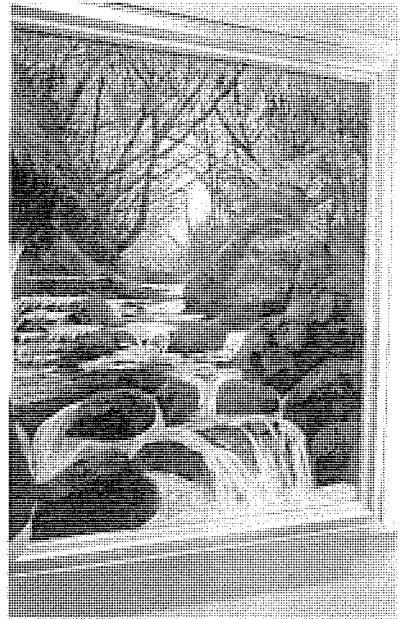
大淀の故・柏木さん作品、「森と水の源流館」で展示

ちぎり絵で描いた大作

葉やコケ、岩肌など精微に表現

川上

寄贈された水源地の森のちぎり絵作品「川上村の平の森と水の源流館」



たつて指導。平成30年12月に93歳で亡くなる直前まで自宅で折り紙の干支飾りを教えていた。

滝の作品作りで十津川村まで足を運ぶなど自然が好きだった。本紙の記事を読み、水源地の森に強くひかれたがガイドツアーでしか入山できない。そのため、源流館で求めたポスターをもとに半年かけて50号（縦

約110センチ、横約80センチ）の作品を完成させた。

さまざまな和紙や技法を使い、緑重なる森やきらめく溪流を表現。葉やコケ、岩肌の一つ一つが精微で一見すると絵画のよう。みさをさんにとっても「最初で最後の大作」という。遺族は「川上村で多くの人に見ていただければ」と話した。

川上村の水源地保全に共感した大淀町下淵の故・柏木みさをさん（大正14年生まれ）が91歳で制作したちぎり絵の大作がこのほど、同村の環境学習施設「森と水の源流館」に展示された。柏木さんは50歳代でちぎり絵に出合い、大淀町の生涯学習講座で30年以上にわ

26日に草刈り体験 ボランティア募集

川上・森と水の源流館

川上村の「森と水の源流館」は、国の大滝ダム建設で集落全37戸が移転した同村白屋地区で26日に催す「草刈り体験ボランティア」の参加を募っている。住居の石垣が段々に残るダム湖畔の斜面を再生する村の「未来への風景づくり」の取り組みで、里山保全の大切さを知ってもらう狙い。午前9時半に現地集合、午後3時まで。「未来への

風景づくり見本園」で在来の大切な生き物を守るための草刈り、キク科の外来種「アメリカオニアザミ」などの駆除作業をし、周辺の散策や自然観察を楽しむ。定員10人（先着順）。小學生は保護者同伴。弁当持参。申し込みは源流館（0746・52・0888）。（福田純也）



「水」と「人」でつながる総合学習

雑賀小4年1組と「森と水の源流館」事務局長の学びの交流

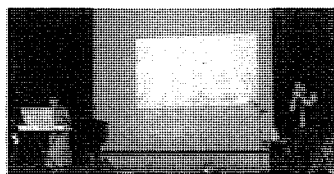
手紙やビデオレターで絆を深めて、お互いを訪問

「水」がつなげたのは、家の絆。紀の川の水源地、好奇心あふれる児童たち、奈良県川上村にあると、学ぶ意欲を促す専門「森と水の源流館」の尾上さんに質問をする児童たち、問伐材で作られた名札にも興味深々。出前授業の様子がユーチューブで配信中です(<https://www.youtube.com/watch?v=owghoqq0Vg>)



尾上さんに質問をする児童たち、問伐材で作られた名札にも興味深々。出前授業の様子がユーチューブで配信中です(<https://www.youtube.com/watch?v=owghoqq0Vg>)

上恵大(たのお)事務局長が、和歌山市立雑賀小学校(同市西浜)に9月に来校。4年1組を対象に出前授業「水ではじまる物語」を行いました(協力：森林環境保全促進和歌山市議会議員連盟)。尾上さんと4年1組の交流は、暮らしかかわる「水」について学ぶ社会科の授業から始まり、贈られ、児童たちは水の感想や質問を書いたお礼の手紙を尾上さんに郵送。それに対し、尾上さんは源流から下流への水の旅や川上村について解説したビデオレターを作成し、児童の質問に答えました。続けてオンライン授業も実施し、児童た



音響効果の経音文書さんと共に、水や食物のつながりを歌にした演奏も披露



川上村の社会見学。川の水の清らかさ、冷たさに歌声が上がりました

「や」と会えたね、尾上さん！」
「私も雑賀小を訪れたい」と尾上さんの来校が決まりました。
それまでは映像でしたが、知らない尾上さんと4年1組が、出前授業で初めて

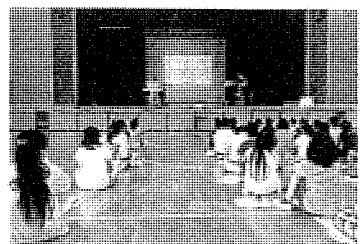
「えられた質問が多く、今までの私の話を熱心に聞いてくれたことが分かりました。1学期に交流を重ね、こうして直接川上村の話を伝えられる機会を持つことができました。疑問を持つて解決する力を育めれば」と語ります。
出前授業の6日後に児童たちは川上村を訪ね、源流の美しさを五感で受け止めました。今後は、紀の川下流や海について学習する予定。4年1組の川の旅は、まだまだ続きます。

「うれしいです」と尾上さんは応えます。児童の一人、安藤愛莉(あいり)さんは「尾上さんは、水や自然が豊かな川上村を誰よりも愛していると思いました。私も川にごみを捨てず、水を大切にします」と笑顔で話しました。担任の赤松広志教諭は「社会科で始まった学びを、児童の主体性がより発揮できる総合学習につなげていきます。今年度は休校もあり、座学中心になりがちでしたが、この交流を通して、人とのつながりを大事に、自ら

わかやま市議会だより No.099

議員連盟
活動
レポート
Vol.17

森林環境保全促進和歌山市議会議員連盟は、本市の水源地保護等を図るため活動しています。その取組の一つとして、紀の川の源流にある奈良県川上村から講師をお招きし、小学校への出前講座を行っています。今回は、雑賀小学校において、普段使っている水道水が遠くの水源地から運ばれてくることや、源流の自然と水源地を守るこの大切さを学習していただきました。この出前講座は今後も続きます。



出前講座の様子

稲刈り体験で交流

大淀希望ヶ丘小と川上小5年生41人

吉野川分水の水源地域にある川上村立川上小学校5年生4人と、下流にある大淀町立大淀希望ヶ丘小学校の同年生37人が26日、橿原市田中町の田んぼで、地元農家組織「水土里の会」（吉田宗義会長）の指導を受けながら、稲刈り体験して交流した。

水源地の川上村と大和平野が吉野川分水でつながっていることを児童に感じてもらおう「水のつながりプロジェクト」（大和平野土地改良区、川上村主催）の一環。平成24年度から県内の小学4、5年生を対象に毎年実施し、川上小学校と大和平野にある小学校の児童が一緒に1年間で「田植え」



稲刈り体験する川上小学校と大淀希望ヶ丘小学校の児童たち=26日、橿原市田中町の田んぼ

「源流」「稲刈り」の三つを体験している。

この日、児童らは同町内にある「水源地交流水田」の稲が害虫（ウンカ）被害にあったため、近くの吉田

干しするための「ほぎ掛け」にも挑んだ。

大淀希望ヶ丘小学校の辻ノ内琴葉さん（11）は「作業中に」川上小学校の人に助けってもらったなど、いい経

会長の田んぼに集合。同会のメンバーから稲の刈り方など教えてもらいながら、一緒に稲穂を刈り取った。10株ずつをわらで束ねたり、束ねたわらを天日

験になった」。川上小学校の猪腰大唄（たいせい）くん（11）と池田結月（ゆづき）くん（11）は「稲刈りがこんなに大変とは思わな

かった」「最後にわらで結ぶことが大切だと思った」とそれぞれ感想を話した。

「奈良県のちょっと珍しい昆虫」より



◇奈良◇

◆二展示「奈良県のちょっと珍しい昆虫」 12月27日まで、川上村迫の森と水の源流館(0746・52・0888)。ガとして国内で最も重い「オオシモフリスズメ」、今年7月に館のそばで採取され、44年ぶりの県内確認となったガ「カバフキシタバ」、体が青い赤トンボの仲間「ナニワトンボ」など、県版レッドデータブックに掲載されている17点の昆虫標本を展示。説明文を添えた写真パネルも並ぶ。水曜休館。一般400円、小中学生200円。

「森と水の源流館」を無料開放

川上、14～16日

川上村が定めた「源流の日」を広く知ってもらうと、同村宮の平の環境学習施設「森と水の源流館」は14～16日の3日間、施設の無料開放を行う。

「源流の日」は、平成26年11月16日に同村で天皇皇后両陛下を迎え、「第34回全国豊かな海づくり大会」や「放流事業が行われたのを記念して」「森や水の大切さを考え、伝える日にしよう」と村条例で制定した。関西文化の日(14、15日)にも参加している。

また14日からは、館内の「源流の森シアター」でイェルミネーション企画「モリナリエ2020」源流からよりよい未来への一歩(～12月27日)も始まる。通常の入館料は高校生以

上400円、小中学生200円。

問い合わせは同館、電話0746(52)0888。

丹生川上神社上社へ和歌山の児童ら

感謝の心 歌声に乗せ

自作の米と合唱を奉納

川
上

紀の川（吉野川）の源流、川上村と交流を深め、森や水の大切さを学んだ和歌山県橋本市の市立あやの台小学校（今田実校長）の5年



源流応援ソングを手話付きで奉納する児童＝11月14日、川上村迫の丹生川上神社上社

生が11月14日、川上村迫の丹生川上神社上社（望月康磨宮司）に米と自作の源流応援ソングを奉納した。米は今年、校内の体験水

田で地元農家に教わりながら育て、収穫、脱穀した。歌は児童が作詞した「森と水のつながり」がありがとうのバトン」で、水源地を守って暮らす人々の思いや流域の営みに目を向けて「水のバトン」をつなぎ、「自然を守ろう」「大切にしよう」と呼びかける。川上村でコーラスなどを指導する音楽家の松谷文美さん(54)「東吉野村平野Ⅱが子どもらしい、心地良いリズムで曲をつけた。

この日は5年生57人のうち代表5人と教員、保護者が同神社を正式参拝。前川芽衣さん(10)が「ものを育てたり、おいしくごはんを食べたりできるのはきれいな水を送り続けてくださる川上村の皆さんと自然のおかげです」と感謝した。同校の児童は昨年からは、同村の環境学習施設「森と水の源流館」の職員が学校などにおもむく出前授業をきっかけに遠足で村を訪れるなど交流を深めていた。

オイデ新聞

第51号
発行所 奈良新聞社
〒630-0196 奈良市上町2番6号
www.oidenews.com
0120-123456
0120-123456

新たな交流を作ろう

森と水の源流館を案内するプログラム

「T B奈良支店の「吉野源流体験スタンフラリー」協賛プログラムの一つとして、令和二年十一月二十九日に森と水の源流館を案内するプログラムをしました。私はスタンフラリーの参加者と一



緒に森と水の源流館を回り、水槽やシアターや展示物を楽しみながら、自分の経験した川上村のことを話しました。川上村のことを話しました。学生の時に同志社大学に半年留学した私は、土倉庄三郎さんに感謝しているということや、冬の間も積もった雪に動物たちの足跡を見つける楽しみなどに話しました。

最初に緊張していましたが、そのプログラムをやってみてよかったです。新型コロナウイルスの感染防止対策をしっかりと守りながら、村外から来た参加者と村のことを話し合い、安全に交流することができました。森と水の源流館の面白さや、川上村の魅力により多くの人に知っていただき、とてもうれしいです。

エリック

奈良新聞 2021.1.8



こまごま

○：良質な吉野スギの産地、川上村の環境学習施設「森と水の源流館」で、吉野スギで手作りした「門杉」が来館者を迎えている。写真。17日まで。

○：土台は吉野スギの板を組んだ樽(たる)で、「門杉」に使われる竹の代わりになる3本の吉野スギ間伐材を立てた。飾りは村内の山中で採取できるさまざまな植物。難を転じる南天(なんてん)、トゲで邪鬼を払う

ヒイラギなどで無病息災を、また「ウラジロ」の2枚の葉のように白髪になっても夫婦仲良く」と、人々の幸せを願って職員が作った。

○：「門杉」は同館のほか丹生川上神社上社や湯盛温泉ホテル杉の湯にも飾られており、デザインも異なる。源流館は水曜休み。

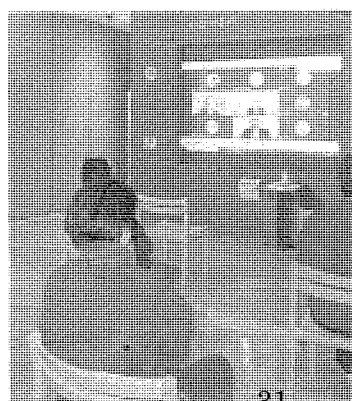
奈良新聞 2021.3.7

川上村

オンラインで授賞式 大工天制作村PR動画

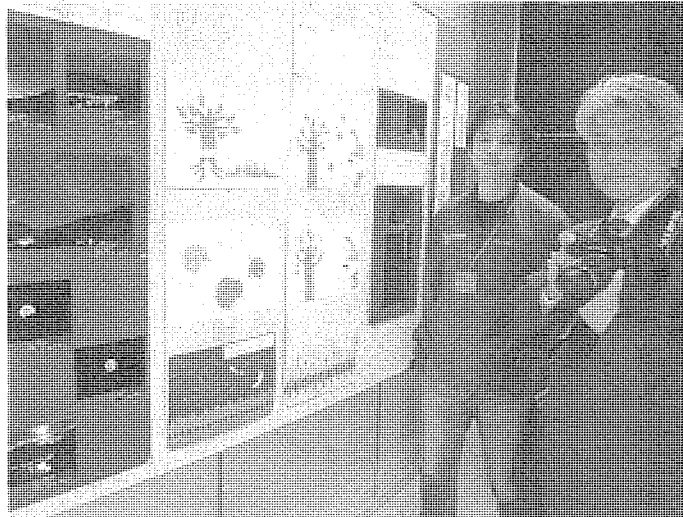
川上村は1月19日、村と連携協定を結ぶ大阪工業大学の情報メディア学科3年生が制作した、村PRコンテンツの表彰式を行った。

今年で9回目、動画コンテンツ94作品が制作された。例年は同大方キャンパスで行う表彰式を、新型コロナウイルス対策でオンラインで実施。式典の様子が同村迫の森と水の源流館内の大型モニター「川上村劇場」でも中継された。写真。



13日、オンラインプラネタリウム

川上村の星空の魅力を発信する佐藤さん(左)と古山さん(右)28日、川上村宮の平の森と水の源流館



川上から贈る

コロナ禍の収束が見えない中、水源地の森に守られた美しい星空を通して世界に希望を届けようと、川上村は2月13日午後7時から、同村の夜空をバーチャルで再現するオンラインプラネタリウムをユーチューブライブで配信(無料)する。スタッフは「非日常を届けたい」と意気込む。

オンラインプラネタリウムの企画運営会社「アストロコネクト社」(神奈川県川崎市)と提携し、同村白屋地区で撮影した360度展望の映像を背景にプラネタリウムソフトを用いて同日同時刻の星空を再現。明るさなどの数値を反映させると見える星の量などが変わり、番組(約40分)では首都圏の星空との比較な

「星空」「希望」

ども行うという。

「川上村を実際に訪れて、今日の本でもここまで見えるんだと久しぶりにびっくりしました」と同社の荒井大代表(45)。番組では司会を担当し「多くの方に非日常を届けられると思う。地域の皆さんには星のきれいさが貴重だということ伝えたい」と話している。

同村からは村役場源流ツアーリズム推進室の佐藤充次長(53)らが番組に出演し、星空解説や村の紹介を行

源流館では展示も

う。佐藤さんは約6年前に同村に移住して空と水の美しさに感動し、村内で星空ツアーなどを企画している。

また、同村宮の平の村環境学習施設「森と水の源流館」で開催中のミニ展示「森が守る星空」(3月31日)は佐藤さんが撮影した星空の写真約20点を展示。2月13日午後1時から、佐藤さんのミュージアムトークもある(コロナの状況により変更あり)。

源流館のスタッフ古山暁さん(39)

は「森の呼吸が澄んだ空気をふくみ出しているから」

と森林と星空の関係を指摘。展示では簡単な撮影方法などを添えて星空の楽しみ方を提案している。

オンラインプラネタリウムの問い合わせは村役場源流ツアーリズム推進室、電話0746(52)0111。

源流館は午前9時～午後5時開館。水曜休み。入館料は高校生以上400円、小中学生200円。問い合わせは同館、0746(52)0888。

同日同時刻を再現



公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

〒639-3553 奈良県吉野郡川上村宮の平

電話 0746-52-0888 FAX0746-52-0388

<http://www.genryuu.or.jp> e-mail: morimizu@genryuu.or.jp